

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 金沢市立田上小学校

(※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注 1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注 2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒920-1156

石川県金沢市田上の里 2 丁目 1 番地

E-mail tagami-e@kanazawa-city.ed.jp

Website <http://www.kanazawa-city.ed.jp/tagami-e/>

幼児児童生徒数 男子 419 名 女子 424 名 合計 843 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「田上に生きる」を活動テーマとして、ESD を総合的な学習の目標と捉え、ESD の実践を通して情報活用する力、多面的、総合的に考える力、コミュニケーションを行う力、他者と協力する態度、進んで参加する態度の育成を目標とした。具体的には、環境、生物多様性、伝統文化を柱に、①田上の地域を学ぶ学習、②能「加賀宝生」に係わる学習、③里山の自然や米作りに係わる学習、④地域のツバメ調査に係わる学習を行った。

① 田上の地域を学ぶ学習

3 年生は、田上地区の地形の特色や土地利用の様子を知るために実際に歩いて調べた。また、地域のスーパーマーケットを見学し、働く人たちにインタビューし、お店の工夫について学んだ。和菓子屋さんではおいしい和菓子をつくる工夫を学んだ。そして、学んだことを地域の方や他学年にどのように発信するか、グループで話し合いながら学習を進め、分かりやすく伝える工夫を考え発表した。

② 能「加賀宝生」に係わる学習

4 年生は、金沢市に伝わる伝統文化「加賀宝生」の謡、仕舞、太鼓に挑戦した。

「能について調べ、『羽衣』に取り組んで成功させたい」という思いを持って学習を進め、能楽師の先生のお話を聴く、県立能楽堂の見学に行くなどの体験を行った。学習発表会では、見事な能「羽衣」を演じ、その後のグループごとの発表では、聞き手が能楽に関心を持てるように、劇やクイズを取り入れながら、調べてまとめたことを表現することができた。これらの活動から、伝統文化を継承していく難しさに気づき、今後も能に親しみたいという思いを高めることにつながった。

③ 里山の自然や米作りに係わる学習

5年生の里山調査活動では、「田上の歴史」「木の実」「キノコ」「植物・薬草」から調べたいテーマごとにグループを作り、図書などによる調べ活動と実際に山に入っの活動を進めた。調査では地域の里山メイトの方に詳しく教えていただいた。学習発表会では、分かりやすく伝えられるように工夫して発表することに努めた。また、北谷に広がる棚田での稲作活動では、60年前の稲作の再現ということで、無農薬栽培に取り組み、収穫した米でもちつき体験をした。農薬を使わないことから多様な生物が生息していることやそれらが互いにつながり合っていることなどを学ぶことができた。

④ 地域のツバメ調査に係わる学習

6年生の「田上のよさ」を調べる学習では、「つばめ調査」を追究テーマとした。これは、環境教育や地域学習の視点を重視した取組である。県庁の方を招いて学習会を行った後、各地域に分かれて調査をした。そして、分かったことを新聞にまとめ、発表会や交流会を行った。まとめた壁新聞は「記録観察作品の部最優秀賞」を受賞し、児童2名が、「小学生ツバメ調査国際キャンプ in のと」において、県内児童の他、韓国、台湾の子どもたちを前に発表することができた。



① 学習発表会



② 加賀宝生「羽衣」の発表



③ もちつき体験



④ ツバメ調査

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(情報を活用する力)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ふるさとのツバメ総調査報告書（平成28年度）	石川健民運動推進本部
フィールドベスト図鑑日本の毒きのこ	Gakken
里山生き物図鑑	童心社
よくわかる日本のキノコ図鑑	Gakken
フィールドベスト図鑑 日本の山菜	Gakken
棚田はエライ	農文教
稲と日本人 甲斐信枝 佐藤洋一郎	福音館書店

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

田上小 ESD カレンダーを作成し、各学年毎にすべての教科総合的な学習、道徳、特別活動の年間計画と ESD に関わる内容を明記し管理運営計画に位置づけている。

また、総合的な学習の各学年の教育課程も、ユネスコスクールの「田上に生きる」をテーマとして、各学年に応じた学習内容を計画、実践している。

発信の場として、11月に全校で学習発表会を開き、児童同士だけでなく地域、保護者に学習した内容を工夫して伝え、感想を交流している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校に一人、各学年にも一人ずつ総合的な学習の担当者を置き、月1回の学習委員会で ESD の進捗状況、学習発表会の企画、運営の仕方の検討を行い、実施後はふり返りをして、次年度へ継続できるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価は、児童アンケート、教員アンケート等で、つきたい力についての評価を行っている。また、学校関係者評価委員会にて、学習面での評価を行っている。具体的には「、『金沢ふるさと学習』において、金沢の多様な素材や人材を活用し、金沢について学び、考え、かわり、広める学習を実践している」という項目について、地域素材の教材化が進み、頻繁に活用することができた。特に地域人材と触れあうことで田上地区への愛着や誇りを持つ児童が増えた、と評価している。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

発信方法として全校的なものは、11月に行われた学習発表会である。各学年がテーマに沿って学校全体を会場としてグループ発表を行う形式であり、発表→質問・感想→答え→感想 のやりとりができるよう、表現方法を工夫している。1年生から6年生までが同時に発表し、1, 2年生は生活科、3年生以上は総合的な学習の時間による成果を発信している。他学年、保護者、地域の方に発信することによって、相手意識を持った発表ができ、質問や感想を受けることで達成感につながった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域の方を中心に構成される「里山メイト」の方々や金沢大学の方と、北谷(キタダン)における米作り、生物の調査活動で活動の支援を受けている。

また、能「加賀宝生」の活動では、能楽師の方に指導を受け、4年生が発表を見ていただいている。また、卒業式では、5年生が謡「鶴亀」を披露し、来賓、保護者の方々に学習の成果を披露している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

同じ中学校へ進学する小学校と中学校で小中一貫の取組を行っている。現在は、4校の「金沢ふるさと学習」に関する掲示物を回覧し感想の交流を行っている。

また、金沢市全体では「金沢ユネスコスクール子どもサミット」が計画され、各学校ユネスコスクールの活動をポスターにまとめ発表、交流する予定であったが、今年度は大雪のためポスター掲示のみとなった。

ツバメ調査の成果では、まとめた壁新聞が「記録観察作品の部最優秀賞」を受賞し、児童2名が、「小学生ツバメ調査国際キャンプ in のと」において、県内児童の他、韓国、台湾の子どもたちを前に発表することができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

児童に関しては、継続的に、ユネスコスクールとしての活動が続けることによって、1年生入学時から卒業時までの6年間の間に「課題を発見し、探究し、表現方法を工夫して発表する力」が、ついてきている。

また、5年生のキタダンにおける活動では、希少な生物を守っていこうという意識が、養われている。

地域の里山メイトの方々との連携や、能楽師の先生とのつながりは長年の継続で無くてはならないものとなっている。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

これまでの「田上に生きる」をテーマとした活動を継続・発展させる。その上で、より「課題を発見する力」、「探究する力」を付けさせるために教育課程の見直しを行う。

具体的には、各学年本年度と同じテーマで取り組む予定であるが、児童の課題意識に対応できるよう、より柔軟な計画にするなど、児童自らが探究する意識を育めるようにする。

各学年のテーマの予定は

3年	地域	「地域・人との関わり」
4年	伝統文化	「地域の伝統文化」
5年	環境	「地域の里山」
6年	生きる	「自分の生き方」